

小中一貫教育に関する制度説明について

1 小中一貫教育に関する制度説明

1-1. 小中一貫教育とは

【小中一貫教育が求められる背景】

- 小・中学校が共に義務教育を形成する学校として、小・中学校の系統性・連続性
- 教育内容・学習活動の質的充実のために長期的視点に立った指導の重要性
- 発達の早期化等に関わる現象（身長や体重、女子の平均初潮年齢等）
- いわゆる「中1ギャップ」（「小中ギャップ」）
- 社会性育成機能強化の必要性
- 学校現場の課題の多様化・複雑化

【小中一貫教育の基本的な考え方】

- 小学校6年間と中学校3年間で、ひとつの連続した学びの期間（9年間）として捉える教育の取組
- 子どもの成長や発達の流れを意識しながら、教育内容や指導のつながりを大切にする

1 小中一貫教育に関する制度説明

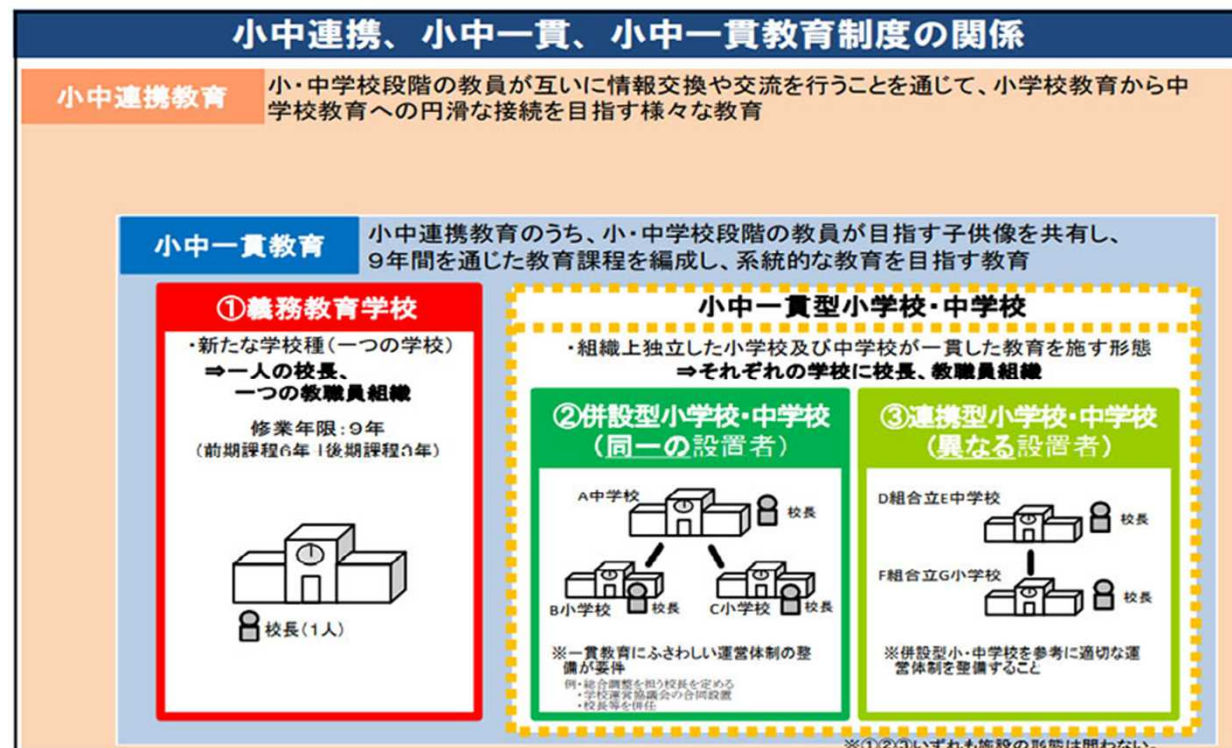
1-2. 小中一貫教育制度

①小中連携教育

- 小学校と中学校が「別々の学校」として、互いに情報交換や交流を通じて、小学校から中学校への円滑な接続をめざす

②小中一貫教育

- 小中学校が1つの学校のように、9年間の「めざす子ども像」や「教育課程」を共有し、計画的・系統的に一貫した教育を行う

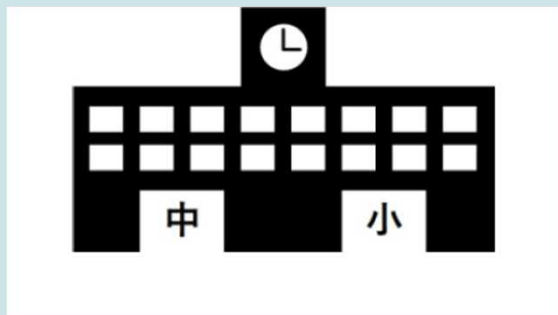


出典：文部科学省ホームページ

1 小中一貫教育に関する制度説明

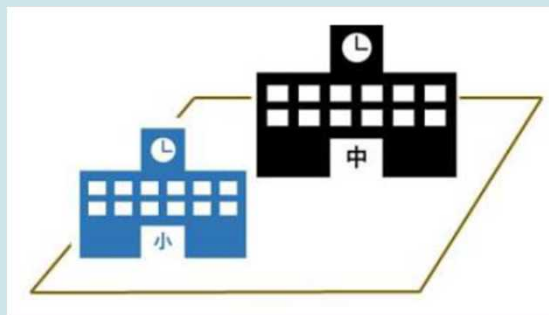
1-3. 小中一貫校の施設形態

(1) 施設一体型



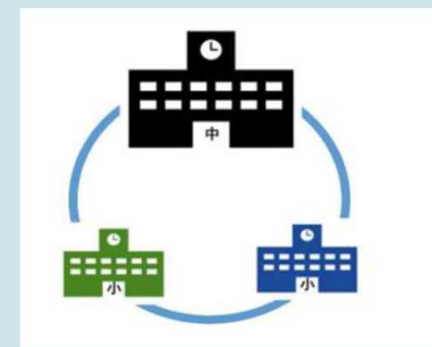
- 同じ敷地内にある校舎で、小学校1年生から中学校3年生（9年生）までがともに学校生活を送る
- 他の施設形態よりも小中の垣根を感じることなく、他学年との交流がスムーズに行える
- 校舎を新設もしくは既存施設を改修する必要がある

(2) 施設隣接型



- 近隣の小学校と中学校を利用し、小学校高学年の児童の全部、又は一部が中学校の校舎で学校生活を送ったり、週に何時間か中学校で学校生活を送ったりする
- 校舎が同一でないため、小学校と中学校の授業時間が異なるような場合でも柔軟に対応が可能

(3) 施設分離型

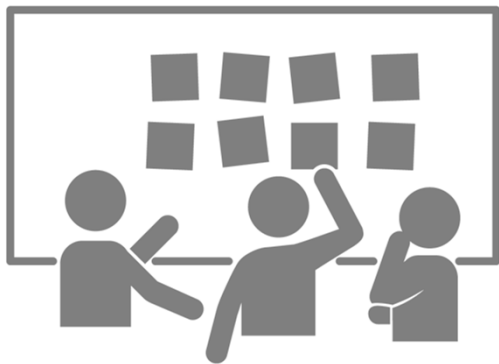


- 離れた場所にある小学校、中学校で教員や児童生徒が移動して、学習したり活動したりする
- 学校同士の距離がある場合もあり、他校との交流の機会が限定されることもある
- 一貫教育を円滑にするため、専任コーディネーターを設置する場合もある

1 小中一貫教育に関する制度説明

1-4. 美浜町がめざす小中一貫教育制度

- 現時点では、町として「**施設一体型の小中一貫教育校を設置する**」という方向性は決まっている
- 今後、**保護者・学校・地域住民・児童生徒の声を聴きながら、美浜町としての考え方を整理し、美浜町にあった小中一貫教育の形を検討していく**



2

ソフト面の展開について

2-1. ソフト面の取組の視点

- 教育課程、教職員の協働体制、地域との関わりなどソフト面の取組によって、子どもたちの学びや成長の質が大きく左右される

○ソフト面の主な取組例

① 教育課程

- 学年の区切り設定
- 節目に合わせたイベントやプロジェクトの実施
- 異学年交流の促進

② 教職員の協働体制

- 小学校における教科担任制等の活用
- 教員による合同の学び合い・交流の促進

③ 地域との関わり

- コミュニティスクールの導入
- ふるさと学習の実施

2 ソフト面の展開について

2-2. ソフト面（① 教育課程）

京丹後市立久美浜小学校・中学校

【学年の区切り設定】

- 従来の6-3制を前提としつつ、指導上は発達段階に応じた学年の区切りを設定
- 学年が上がる節目を意識しながら、無理のない学びを積み重ねる

発達段階に応じた学年の区切り

I 期（基礎期） 小学校1年～4年

II 期（充実期） 小学校5年～中学校1年

III 期（発展期） 中学校2・3年



【出典】文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施等に関する事例集—第2版—」（令和4年3月9日）

2

ソフト面の展開について

2-3. ソフト面（②教職員の協働体制）

小樽市立手宮中央小学校・中学校

【小学校における教科担任制等の活用】

- ・ 小学校5年生から教科担任制を導入
- ・ 音楽については専門教員による授業、理科・外国語については中学校教員による授業となるが、国語・社会・算数については学級担任間の授業交換による授業を実施
- ・ 学級担任の指導力低下を防ぐ研修や、教師同士が教科指導を話し合う機会を設けている

対象学年・教科・実施形態

- ・ 対象学年 5年、6年
- ・ 対象教科・実施形態

	学級担任間の 授業交換による授業	専科教員による授業	中学校教員による授業
5年	国語、社会、算数	音楽	理科、外国語
6年	国語、社会、算数	音楽	理科、外国語

【出典】出典：文部科学省「小学校高学年における教科担任制に関する事例集」（令和5年3月）

3

ハード面の展開について

3-1. 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

School for the Future 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

未来思考の視点

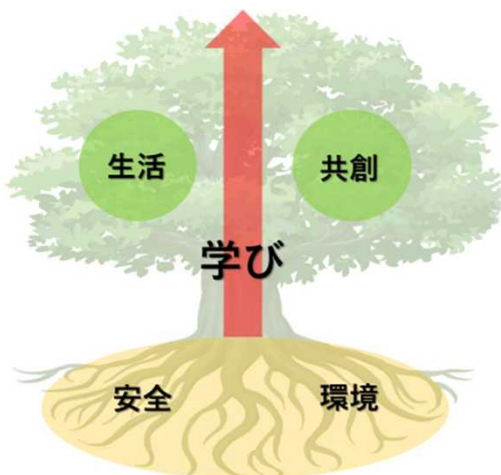
- ① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。
- ② 教室環境について、単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）をもつ。
- ③ 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）をもつ。
- ④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する。

3

ハード面の展開について

3-1. 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿

「未来思考」をもった上で、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿を示す。

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『学び』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『生活』『共創』の空間を実現する。

また、新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『安全』『環境』の確保を実現する。

- 学び** 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現
- 生活** 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現
- 共創** 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現
- 安全** 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現
- 環境** 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

3

ハード面の展開について

3-2. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく



学び

単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿



学び

学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿



学び

教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿



学び

映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休憩ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿



生活

木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿



共創

地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿



安全

長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿



環境

省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

3

ハード面の展開について

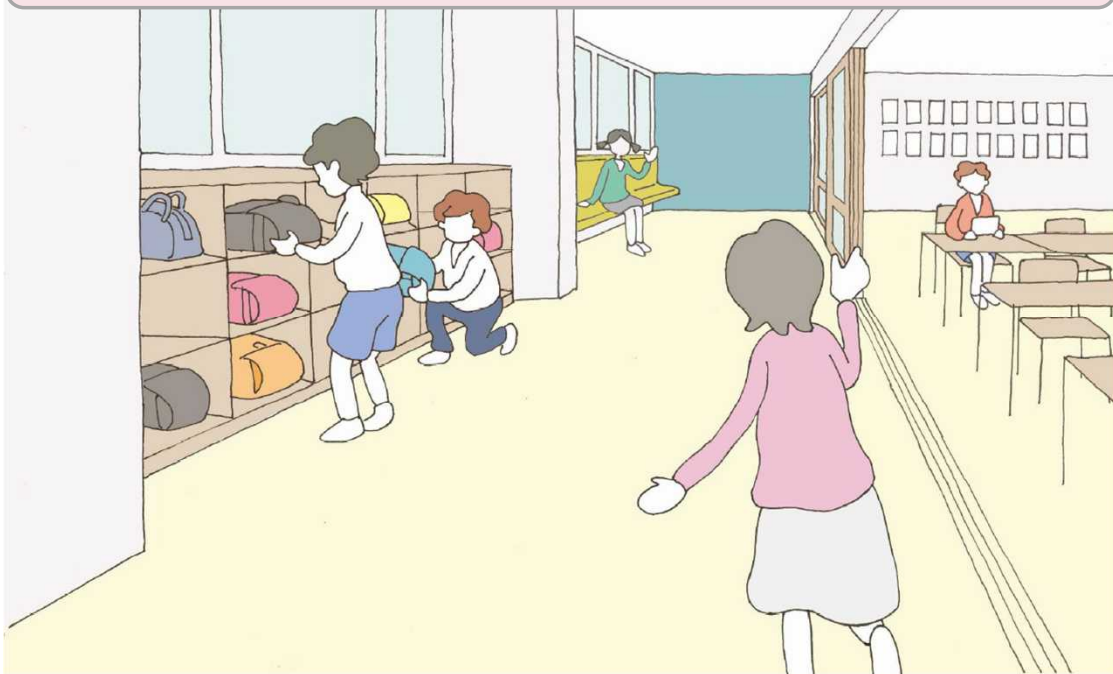
3-2. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

学び

多様な学習活動を展開できる学習空間

柔軟で創造的な学習空間を実現する

ロッカー等の移動可能な家具を教室外に配置し、教室空間を有効に活用していく姿



事例 糸魚川市立ひすいの里総合学校【新潟県】



- オープンスペースと教室の間にロッカーが配置。
- 教室空間の有効活用を目指すとともに、教室の独立性も確保する。

事例 京都教育大学附属桃山小学校【京都府】



- ロッカーとホワイトボードを兼ねた可動式の壁により、用途に応じた柔軟な空間構成が可能となる。
- 多様な学習活動に対応し、児童に寄りそった快適な学習環境を整えている。

3 ハード面の展開について

3-2. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備

学び

柔軟で創造的な学習空間を実現する

学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて
読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿



事例 荏原平塚学園【東京都】



- 全学年が利用しやすい3階に、図書室とPC教室を一体化したメディアセンターを設置。
- 周辺に和室や多目的教室を配置し、図書の閲覧を促す計画としている。

事例 府中市立府中学園【広島県】



- 図書室は総合メディアセンターとして、コンピュータールームと一体化し、校舎の中心に配置されている。
- 新しく入った本の紹介や、読書週間等のおすすめの本コーナーを小中それぞれに設置。

3

ハード面の展開について

3-3. ハード面の検討時に大切な視点

① 子どもの学習や活動に適した多様な空間づくり

- ・美浜町としての子どもの特徴や卒業時の子ども像を踏まえ、
基礎的な知識・考え方・行動力を体感し、養うことのできる空間づくり

② 利用者が使いやすいシンプルで柔軟性のある各空間の設え

- ・子どもや教職員などの学校施設の主たる利用者が、
容易に空間の使い方のイメージを持つことができるとともに、
多様な学習や活動にも対応できる柔軟性のある空間の設え

③ 子どもがあらゆるヒト、モノ、コトと出会える空間づくり

- ・日常から、児童生徒同士の出会い、
児童生徒と教職員や地域住民などの大人との出会い
児童生徒と本や作品、自然などとのモノとの出会い
などの 多彩な出会いが自然と創出される空間づくり